

項目名：農業土木に係る組織力の維持・向上のための農業土木職員の確保及び人材育成

1. テーマ選定

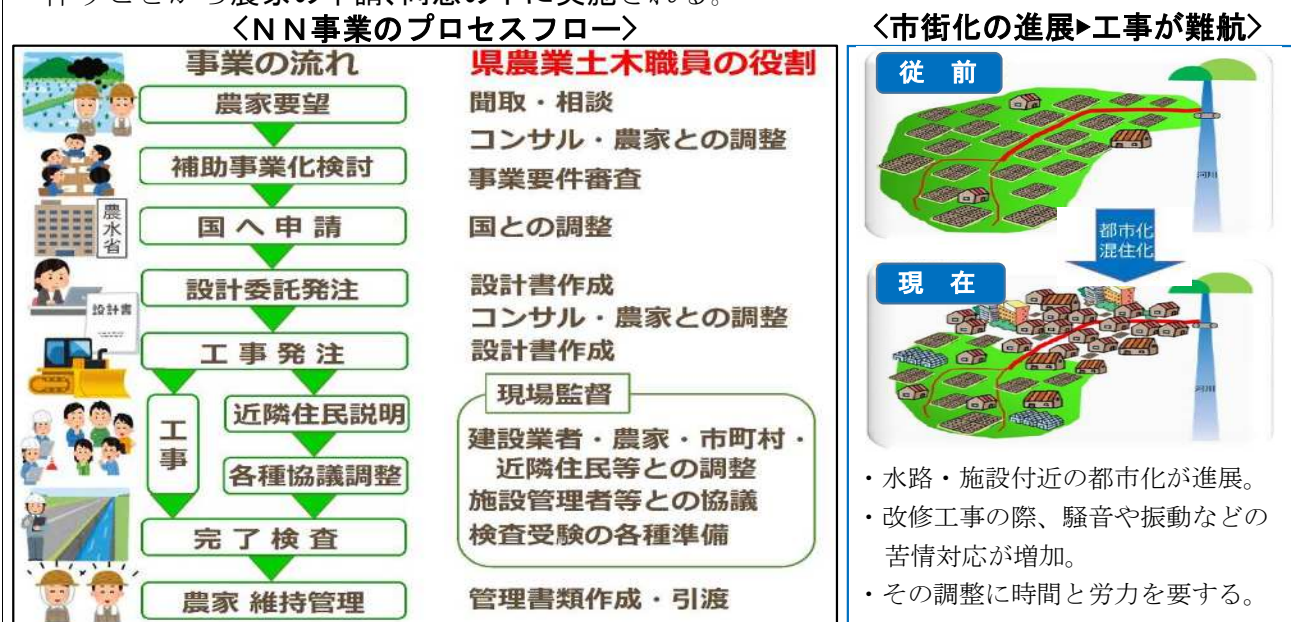
○近年、全国の自治体において技術職員の確保が問題化してきており、今後の行政運営の支障になることが懸念されている。本県においても、農業土木職員の年齢構成に偏りがあり、特に30～40歳代の職員が極端に少なく、組織運営等での大きな懸案となっている。

○愛知県の農業を支える農地や用排水路、用排水機場などの生産基盤の整備という重要な使命を担う農業土木職の組織力の向上のため、技術や経験の承継、採用に関することなど、多角的に検討する必要がある。

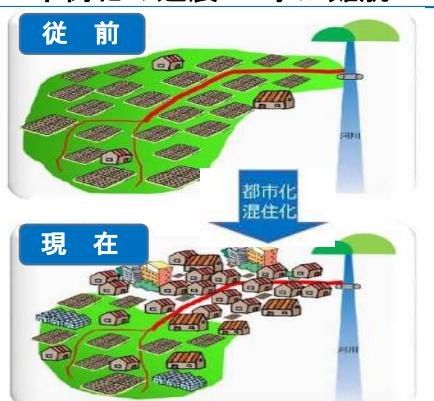
2. 現状把握

○農業農村整備事業(以下、NN事業)について

NN事業は、農家の私的財産である農地の利用に影響を及ぼすことや農家の費用負担が伴うことから農家の申請、同意の下に実施される。



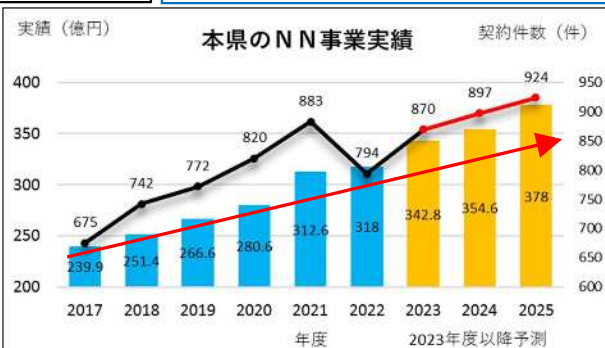
＜市街化の進展＞工事が難航



・水路・施設付近の都市化が進展。
・改修工事の際、騒音や振動などの苦情対応が増加。
・その調整に時間と労力を要する。

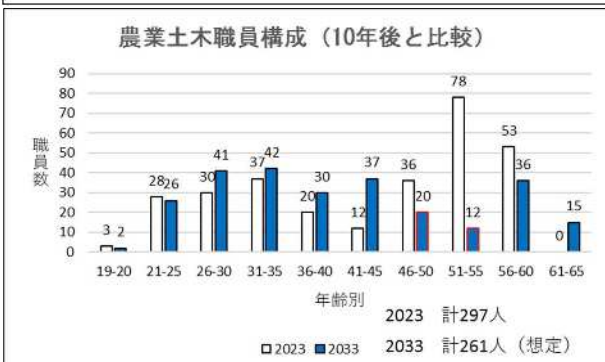
○NN事業実績の推移

- ・本県のNN事業実績は、増加傾向にある。
- ・特に近年は、農業用の用排水路や排水機場などの更新整備の要望が増加。
- ・今後も、老朽化対策や地震・豪雨対策は不可欠であり、要望は継続して増加することが想定される。(2017年～2022年で133%の伸び)

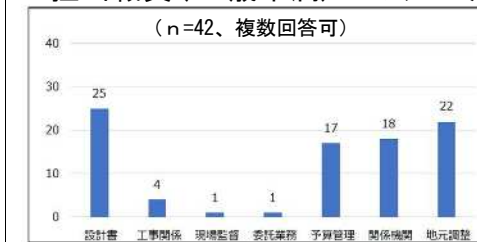


○本県の農業土木職員数の推移

- ・農業土木職の職員数は現在297人。
- ・50歳以上が146人と半数を占めている一方、39～47歳は21人と極端に少なく年齢構成に大きな偏りがある。
- ・10年後は、職員数が261人に減少し、管理職や班長のなり手(46～55歳の職員)が大幅に減少する見込み。



○担当職員(40歳未満)へのアンケート結果(問. どのような業務に負担を感じているか)



【自由意見】

- ・計画段階である程度の地元調整や関係機関との協議を整えておいて欲しい。
- ・転勤直後は、地域毎の特性があり戸惑うことがある。
- ・気軽に相談できる職場環境や体制の充実に望む。

3. 目標設定

今後、10年で人員構成が大きく変化する過渡期を迎える。マンパワーが不足することで、農家の要望する事業の推進を遅らせることは避けなければならない。そのためには、組織力の向上に向けた多角的な取組みで、この状況を乗り越え、農家の期待に応える必要がある。

4. 要因解析

○農家を始めとする県民へのサービス低下を克服し、維持向上させるには下記の課題がある。

- ①人材の奪い合い
民間だけでなく、官公庁間でも採用競争が激化している。(試験の前倒しや緩和が増加)
- ②年齢構成の偏り
39歳から47歳の職員が極端に少ない。(若手からの相談や上司からの作業依頼が集中)
- ③関係機関への協議・地元調整の負担が大きい
多くの担当職員が負担に感じている。(メインの業務以外でも業務負担が大きい)

5. 対策立案

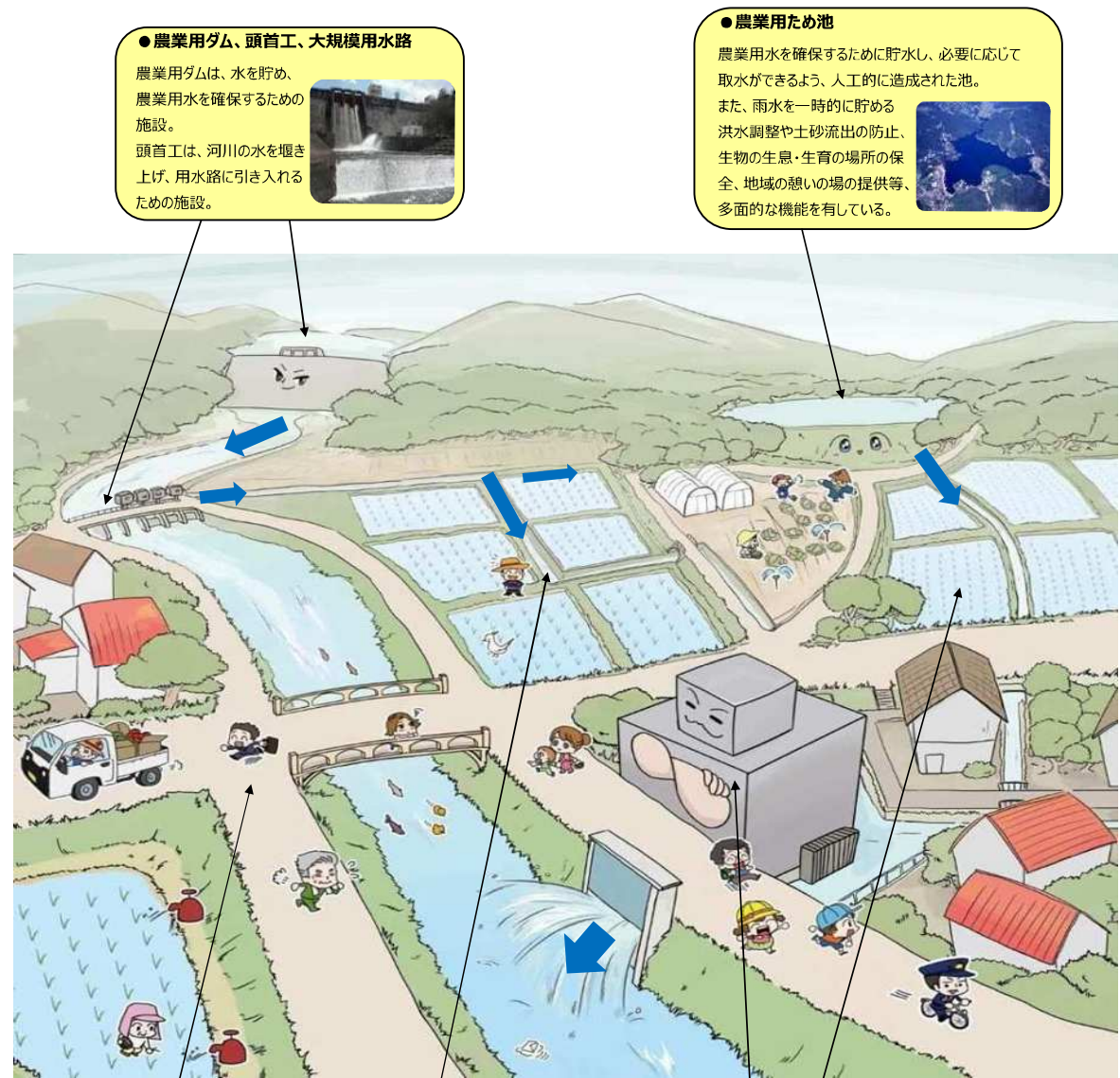
- ①採用活動の推進(2023年12月から)
農業土木を学べる大学が本県にないため、農業土木専攻以外の大学生の採用などを実施。
 - ・農業土木職の業務内容や魅力をPRする広報活動を工学系学部の大学生向けに実施。
 - ・他県の採用試験の実施状況を鑑み、民間企業等職務経験者の採用を推進するため、社会人向けのPR活動を行うなどの対策を講じる。
- ②技術承継の推進(2024年4月から)
プロセスフローを可視化することで、世代の引継ぎを強化。
 - ・調査や工事のメニュー毎にマニュアルを作成。
 - ・工学系土木出身職員向けの農業土木職員研修を充実させることで初任者をフォロー。
 - ・60歳に達した職員が若手職員をサポートすることで、技術者としてのマインドの醸成を図ると共に、農業土木のプロフェッショナル職員を育成。
- ③関係機関への協議・地元調整の効率化(2024年度迄に協議・調整等に係る時間の短縮を図る)
アンケート結果に基づき、職員の悩み・困りごとを取り除いていく。
 - ・地元調整の対応：担当の他に上司や市町村職員、業者と共同で対応し負荷軽減を図る。
 - ・関係機関の協議：事業毎に過年度の事例集を整備し、失敗事例を洗い出すことで対応。
 - ・相談体制の確立：若手、中堅、ベテランそれぞれの段階における相談体制を確立する。

6. 今後の進め方

| 2023年度 | 2024年度 | 2025年度以降 |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| ○一部先行実施 ・対策①:工学系学部向けのPR活動を実施(12月) ○対策の詳細検討 | ○対策の実施 ・対策①:アンケート結果を基に工学系学部向けのPR活動を本格導入 ・対策②:研修メニューのブラッシュアップ(4月～) ・対策③:失敗事例集の作成・フィードバック(～3月) ○対策の効果検証 | ○対策の改善等の検討、実施 |

のうぎょうのうそんせいび

農業農村整備（NN）農業をするために必要な施設を整備する役割



●農業用ダム、頭首工、大規模用水路

農業用ダムは、水を貯め、農業用水を確保するための施設。
頭首工は、河川の水を堰き上げ、用水路に引き入れるための施設。



●農業用ため池

農業用水を確保するために貯水し、必要に応じて取水ができるよう、人工的に造成された池。
また、雨水を一時的に貯める洪水調整や土砂流出の防止、生物の生息・生育の場所の保全、地域の憩いの場の提供等、多面的な機能を有している。



●農道

農業上の利用に供する道路。
農道の整備により、産地から市場までの農産物の輸送時間を短縮することで、農産物流通の合理化や農産物の品質向上を図る。
そのほか、ほ場内作業の効率向上を図る。



●水路

水稲や畑作物の生育に必要な用水を、末端農地まで配水したり、農地からの排水を受ける施設。



●農地

農業に用いられる土地。



●集落排水、環境整備

農業水利施設の有する水辺空間を活用し、水に親しみを持ってもらう。

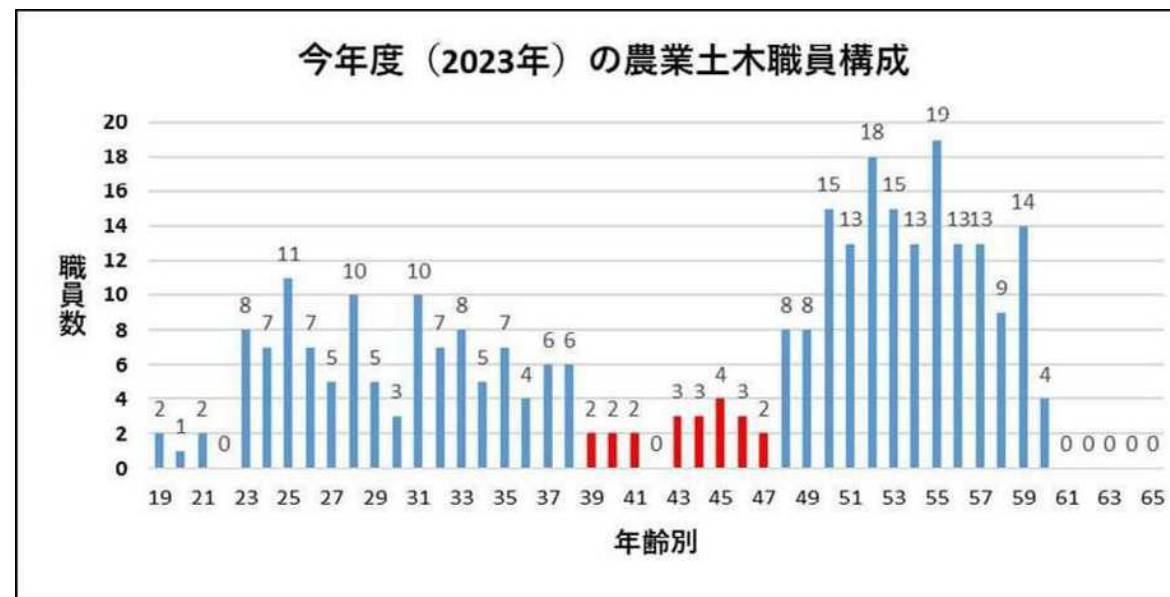


●農業用排水機場

大雨による農地や農業用施設などの被害を防止するためにポンプを運転し、雨水を川や海に排水するための施設。



●農業土木職員数の現在と10年後(想定)



●過去10年の農業土木職員採用状況

○第1回 愛知県職員採用試験 実施結果【農業土木】 ※()…内数で女性の数

| 試験年度 | 採用年度 | 募集人数 | 申込者数 | 第1次試験 | | 第2次試験 受験者数 | 最終 合格者数 | 競争倍率 | 採用数 |
|------|------|------|--------|--------|-------|---------------|------------|------|-------|
| | | | | 受験者数 | 合格者数 | | | | |
| 2022 | 2023 | 約10人 | 21(7) | 16(5) | 16(5) | 13(4) | 10(4) | 1.6倍 | 8(2) |
| 2021 | 2022 | 約10人 | 19(8) | 12(3) | 11(2) | 11(2) | 8(2) | 1.5倍 | 7(2) |
| 2020 | 2021 | 約10人 | 20(5) | 18(4) | 18(4) | 17(3) | 12(2) | 1.5倍 | 11(1) |
| 2019 | 2020 | 約10人 | 20(7) | 18(6) | 18(6) | 16(6) | 8(1) | 2.3倍 | 7(1) |
| 2018 | 2019 | 約10人 | 35(16) | 20(10) | 17(8) | 12(6) | 7(6) | 2.9倍 | 6(5) |
| 2017 | 2018 | 約10人 | 18(5) | 17(4) | 14(4) | 13(4) | 9(2) | 1.9倍 | 9(2) |
| 2016 | 2017 | 約10人 | 23(5) | 18(3) | 14(3) | 12(3) | 8(2) | 2.3倍 | 6(1) |
| 2015 | 2016 | 約5人 | 24 | 21(3) | 13(3) | 13(3) | 6(0) | 3.5倍 | 5(0) |
| 2014 | 2015 | 約10人 | 30 | 24(4) | 14(1) | 13(1) | 9(1) | 2.7倍 | 9(1) |
| 2013 | 2014 | 約10人 | 20 | 11(1) | 9(1) | 9(1) | 9(1) | 1.2倍 | 9(1) |

○民間企業等職務経験者採用 2022年度 **1人** ※初めて採用

○第2回(高校卒業程度)愛知県職員採用試験 実施結果【農業土木】

| 試験年度 | 採用年度 | 募集人員 | 申込者数 | 第1次試験 | | 第2次試験 受験者数 | 最終 合格者数 | 採用数 | 備考 |
|-------|-------|------|-------|-------|-------------------------------|---------------------------|------------------------|----------------|---------------|
| | | | | 受験者数 | 合格者数 | | | | |
| 2022 | 2023 | 若干人 | 7(0) | 5(0) | 5(0) 鶴城丘2、稲沢1 諫早農1、熊本農1 | 4 鶴城丘2、稲沢1 諫早農1 | 3(0) 鶴城丘1、諫早農1 | 2 鶴城丘1、諫早農1 | 熊本農は2次辞退 |
| 2021 | 2022 | 若干人 | 6(2) | 6(2) | 5(1) | 5(1) 鶴城丘4、諫早農1 | 4(1) 鶴城丘3、諫早農1 | 1 諫早農 | 鶴城丘の3名は辞退 |
| 2020 | 2021 | 若干人 | 7(0) | 7(0) | 7(0) | 7 鶴城丘2、稲沢2 諫早農2、都城農 | 4(0) 鶴城丘 諫早農、都城農 | 2 諫早農、都城農 | 鶴城丘、諫早農の2名は辞退 |
| 2019 | 2020 | 若干人 | 3(1) | 3(1) | 3(1) | 3 鶴城丘2、都城農 | 2(1) 鶴城丘2 | 0 | 鶴城丘の2名は辞退 |
| 2018 | 2019 | 若干人 | 3(0) | 3(0) | 2(0) | 2 稲沢、都城農 | 2(0) 稲沢、都城農 | 2 稲沢、都城農 | |
| 2017 | 2018 | 若干人 | 13(1) | 13(1) | 8(1) | 8 鶴城丘2、稲沢3 諫早農2、都城農 | 4(1) 鶴城丘2 諫早農2 | 2 諫早農2 | 鶴城丘の2名は辞退 |
| 2016 | 2017 | 若干人 | 7(0) | 6(0) | 5(0) | 5 鶴城丘2、稲沢2 諫早農 | 3(0) 鶴城丘2 諫早農 | 1 諫早農 | 鶴城丘の2名は辞退 |
| 2015※ | 2016※ | 若干人 | 5 | 5(0) | 4(0) | | 2(0) 鶴城丘2 | 0 | 鶴城丘の2名は辞退 |

※2001年度試験以来、14年ぶりに「農業土木」の採用試験を実施

●現在実施している採用活動

①NNの窓(学生にNNの魅力発信)

官民一休となり、学生と農業農村整備に携わる農業土木技術者が交流
 ・県農業土木職、建設会社、コンサルタント会社、土地改良区の4者
 が各職場の役割や取組を発表する。リクルートではなく魅力を発信する。
 ・農業土木専攻の大学以外に、一般工学系の私大にも拡大している。



②リクルート活動

近隣の農業土木専攻の大学の他、主要な地方大学にも活動を拡大。
 ・近年は、高校生も採用しており、農業高校にもリクルート活動を実施。
 特に九州の農業高校へリクルート活動を強化した結果、毎年に近い
 状況で九州の農業高校から採用している。



③NN事業の魅力発信するNNPR

NN事業の役割や効果を広くPRする活動の現状と展望
 ・主に小学生を対象とした取組で、様々な体験を通じてNN事業の
 魅力を紹介し、農業土木の裾野をひろげる。

| 区分 | 主な内容 |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展示 体験 | ③-1 あいちの農業用水展 ・毎年8月上旬にイオンモールなどで開催。 用水の歴史を学んだり、缶バッチづくりなどを実施。 |
| 出前 授業 | ③-2 農業用水の歴史 ・地域を流れる農業用水について、歴史から ポンプの仕組みや歴史、ゴミの除塵作業を体験。 ③-3 排水機場見学会 ・排水機場の中に入り、低平地の生命線となる ポンプの仕組みや歴史、ゴミの除塵作業を体験。 |
| 体験 | ③-4 ため池のかいぼり ・池の水を抜いた状態で池に入り、外米種の敷除 や池干しの効果、先人の築いた伝統的管理を習得。 |
| | ③-5 釣り大会 ・地域に生息する外来生物の生息状況を把握し、 水辺環境の在り方や生態系保全の大切さを学ぶ。 |
| | ③-6 田植え ・改良区主催のイベントで地元小学生が田植え等 稲作体験。イベントの場を借りてNNについてもPR。 |

③-1 あいちの農業用水展



③-4 ため池のかいぼり



③-2 農業用水の歴史



③-5 釣り大会



③-3 排水機場見学会



③-6 田植え

